

<b>科目名</b> 母性看護学実習	<b>授業担当者</b> 齊藤 豊子	<b>所属</b> 中通高等看護学院
<b>開講時期</b> :前期～中期	<b>単位数</b> :2 単位	<b>時間数</b> :80 時間
<b>授業の目的</b> 周産期にある対象とその家族、地域における母子の保健活動を理解し、看護実践に必要な基礎的な知識・技術・態度を学習する		
<b>授業の概要</b> 実習では、妊娠・分娩・産褥・新生児の生理的な変化を対象との関わりから实际的に学ぶ機会となる。少子化の影響で出生数が減少していることから、学生 2 人で 1 組の褥婦と新生児を受け持ち、対象の経過に応じた看護の実践を学ぶ。また、退院後の生活を見据えた指導や母子を支える医療チームアプローチの実際を知り、看護の専門性について理解を深める。実習終了カンファレンスで自身の成長を確認・交流する。短期間での看護展開になるため、主体的に実践することを期待したい。 生命誕生と親になる過程における看護者の役割を認識し、生命の尊厳についての考えを深めるとともに、自己の母性・父性意識を発展させる機会としたい。		
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 事前学習(学習内容は実習要綱・実習ガイダンスを参照)に取り組み、実習ポートフォリオに綴じ、実習の中で活用できるように準備して臨むこと。母性看護学を実践するために必要な技術(沐浴・児計測・新生児のバイタルサイン)は、根拠に基づき安全・安楽に実施できるように練習を積み重ね、経験の機会を逃さず実践できるよう主体的に実習に臨むこと。 ガイダンスで指導用パンフレットを貸し出します。事前に読み、実践時に活用できるようにしましょう。		
<b>授業計画</b> 1. 日程・実習場所はガイダンス用紙に準じる。 2. 妊婦健康診査を通し、妊娠経過に伴う生理的变化や妊娠期の看護の実際を学ぶ。 3. 臨床判断モデルに沿って母子をアセスメントし、日々の状況に即した看護を実践、評価する。 4. 看護実践・テーマカンファレンスを通して母子の保健活動における役割を理解し、看護の専門性を学ぶ。 5. 看護実践・カンファレンスを通し、母性・父性意識を発展させる。 6. 実習ポートフォリオを用いて、実習中に獲得した看護の学びをプレゼンテーションしあい、知の共有を図る。 7. 機会があれば分娩に立ち会い、分娩時及び出生直後の新生児の看護について学ぶ。		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門 母性看護学各論 医学書院		
<b>参考書・指定図書</b> 病気が見える vol.10 産科 第 4 版 メディックメディア ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた母性看護技術 医学書院 ブックライブラリー ウエルネスからみた母性看護過程 医学書院		
<b>評価の方法</b> 母性看護学実習のルーブリック評価表に添って評価する。		

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります